会 議 記 録

会議名称	令和6年度第2回杉並区ジェンダー平等に関する審議会
日時	令和7年2月28日(金)午後6時～
場所	杉並区役所第4会議室(中棟6階)
出席者	委員名 村松会長、高見副会長、赤池委員、藤岡委員、岩橋委員、櫻井委員、三戸委員、岩田委員、山田委員、横山委員
	事務局 区民生活部長、区民生活部男女共同参画担当課長、保健福祉部高円寺事務所担当課長、子ども家庭部管理課長、子ども家庭部子ども政策担当課長、保健福祉部管理課計画調整担当係長、保健福祉部管理課計画調整担当、区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長、区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援係
欠席者	なし
傍聴者数	8名
配付資料等	資料1 杉並区ジェンダー平等に関する審議会 委員名簿(裏面:席次表) 資料2 杉並区ジェンダー平等に関する審議会 事務局名簿 資料3 「ジェンダー平等に関する審議会」を傍聴される方へのお願い 資料4 第1回審議会でもいただいたご意見について 資料5 用語の定義と区が目指すものについて 資料6 「未来像」「課題」「方策」シート 資料7 区の男女共同参画行動計画+区役所における推進体制「4つの柱」仕分け一覧 参考資料1 第1回審議会でもいただいたご質問について 冊子資料1 杉並区男女共同参画行動計画 冊子資料2 男女共同参画に関する意識と生活実態調査報告書(概要版) 冊子資料3 杉並区男女共同参画行動計画 進捗状況調査報告書(案)(令和5年度実績)
会議次第	1 開会 2 連絡事項 3 審議会運営の確認 4 議題及び報告事項等 (1) 第1回の確認事項について (2) 第2回以降の進め方について 5 その他 第3回開催候補日 令和7年3月26日(水)午後6時～
区民生活部男女共同参画担当課長	それでは定刻になりましたので、第2回杉並区ジェンダーに関する審議会を開会させていただきます。 それでは、会長からお願いしてよろしいでしょうか。
村松会長	皆さん、こんばんは。今日も第2回目ということで進行させていただきます。 第2回杉並区ジェンダー平等に関する審議会を開会させていただきます。前回は第1回でしたけど、第1回から大変活発に皆さんにご意見を頂いて、杉並区の目指すべきジェンダー平等とはどういうことかという議論から、個別化の課題もかなり多様にいろいろ意見を出していただきまして、もう答申に盛り込むべき内容がかなり出てきているのではないかと思います。まだ、これから整理していく段階だと思いますけれども、課題はいっぱい見えてきた気がします。今日ももう1回その辺について

	<p>の議論をしてみて、その先の進め方についても検討していきたいと思いたしますので、どうぞよろしくお願ひします。</p> <p>どうぞ、高見さんも一言あれば。</p>
高見副会長	<p>本日もよろしくお願ひいたします。私も前回の内容を少し振り返りまして、ジェンダー平等と一言でいいますけれども、結構多様なテーマを内包している大きなものだと思います。杉並区のよりよい環境、まちづくりにも生かせるものだと思いますので、本日も皆様と活発な意見交換をしたいと思っております。</p>
村松会長	<p>よろしくお願ひします。</p> <p>では、本日はまず、既にご連絡が行っていると思ひますけれども、委員が1名交代されます。内田委員がやむを得ない事情で辞任ということで、今回より区民の委員としてご参加いただく赤池委員でいらっしやいます。一言赤池さんから、ご挨拶と自己紹介をお願ひできますでしょうか。</p>
赤池委員	<p>このたび参加することになりました、赤池紀子と申します。私は2009年に「creo」という子育て団体を立ち上げまして、母親3人で立ち上げた団体で、後に父親たちも参加してくれるようになりました。前回の議事録を拝見しまして、あれを読むだけでも大変勉強になると思いつつ、今回若い方々もいらっしやり、大先輩もいらっしやりということで、私は就職氷河期世代でありまして、子どもは19歳なのですけれども、ちょうど間の世代として今回参画して、これまでの取組も含めて皆さんと議論できればと思っております。</p> <p>そのcreoという団体を15年くらい運営しておるのですが、並行して『なみすく』という、杉並の全区立小学校が40校ございまして、今児童が約2万2,500人ですが、全児童経由で保護者に配布するこの情報誌の編集にも携わり、同じく15年ほど続けております。現在編集長を務めておるのですが、2021年にジェンダー平等をテーマに学校の実践を紹介したことがございました。それを遡ること、まず2014年に「親がまず知る性と生の教育」というのを特集しまして、その後2016年に「家庭科」についても発信して、わりとまあ早いうちに取り上げてきたのかなと。</p> <p>そもそも活動を始めたきっかけも、なかなか父親からの、夫からの理解が得られないということで、当時男性は講座など来ないと言われたのですが、父親向けの子育ての学び場みたいなものを始めると同時に、発達障害の子を育てる親の勉強会、講演会だったり、あと社会的養護の支援として現場で子どもたちと一緒に料理をしたり、あと専門家、当事者の方に来てもらって話をさせていただいて、地域で自分たちで学び合うという活動もしてきました。</p> <p>全てにおいてが家族、人権の話でつながっています。たまさか、今年度私立高校で非常勤講師をしまして、総合探究の人権という科目を取り扱っていて、その授業を自分で組み立てて、ジェンダーの視点であったり、あとケア労働とかシングルマザーというテーマも取り上げたりしつつ、授業実践をしてまいりました。そんなこともあって、杉並区にわりと長いことお世話になっていて、自分も区民としてそうやって細々とはありますが築いてきたところを踏まえて、皆さんと意見交換できればと考えています。</p> <p>すみません、長くなりました。</p>
村松会長	<p>よろしくお願ひします。では、ここからは次第に沿って進めます。まず事務局から連絡事項についてお願ひいたします。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>ここからは次第の2「連絡事項」となります。</p> <p>まず、定足数についてお知らせ申し上げます。本日は8名が会場で、そして2名の方がオンラインでご参加いただいております。計10名の委</p>

	<p>員にご参加いただいております。過半数のご出席を頂いておりますので、審議会条例第5条第2項により本日の審議会が成立していることをご報告させていただきます。</p> <p>続きまして、資料の確認をさせていただきます。事前にお送りしたものがお手元にございますと幸いです。</p> <p>まず、通番がない資料として「本日の次第」がございます。続きまして通番があるものとして、資料1「委員名簿」がございます。資料1は裏面に席次表がございます。そして、資料2は事務局名簿でございます。資料3は、「本議会を傍聴される方へのお願い」です。資料4は「第1回でいただいたご意見について」で、議事録からご意見をまとめさせていただいた資料が入っております。資料5は「用語の定義と区が目指すものについて」です。資料6はツールのような形になっておりますが、『未来像』『課題』『方策』シート」ということで、1枚おつけしております。そして、資料7はA3のものですけれども、「区の男女共同参画行動計画＋区役所における推進体制5事業『4つの柱』仕分け一覧」になっておりますが、後ほどもう一度ご説明の機会がありますので、こちらでは資料の有無の確認だけさせていただきます。</p> <p>そして、コピーの資料の最後としては、参考資料として「第1回審議会でもいただいたご質問について」をおつけしております。そして冊子の資料としては、製本されたものとしてはもう既に第1回でお渡ししているものになりますが、「杉並区男女共同参画行動計画」。それから「意識と生活実態調査」の概要版、そして新たに事前資料としてお送りしてありました「男女共同参画行動計画 進捗状況調査報告書(案)(令和5年度実績)」で、本日の資料は構成されております。不足がございましたら、事務局に予備がございますので、お申しつけくださいましたらお持ちいたします。</p> <p>なお、「意識と生活実態調査」につきましては結構重いものですから概要版をお持ちいただいているかと思いますが、冊子も事務局で本日も用意しておりますので、お手元資料としてご入り用の際にはお声かけいただければと思います。以上、資料のご説明になります。</p> <p>今、確認を頂いているところだと思っておりますが、皆さん資料の内容で不足のものはございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。よろしければ、続けさせていただきます。</p> <p>先ほど、事務局名簿についてご説明差し上げましたが、本日事務局としては保健福祉部から3名、子ども家庭部から2名参加しております。今回初めて参加させていただいている事務局員から簡単にご挨拶だけさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
保健福祉部高円寺事務所担当課長	皆さん、こんばんは。杉並福祉事務所高円寺事務所担当課長の吉川と申します。本日は松田に代わりまして出席させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
子ども家庭部子ども政策担当課長	皆様、こんばんは。子ども政策担当課長をしております松田と申します。私の部署は、子ども・子育て分野の計画策定ですとか、そういったところを所管しているということで今回ご参加させていただくことになりました。どうぞよろしくお願いいたします。
保健福祉部管理課計画調整担当係長	お世話になります。保健福祉部管理課の計画調整担当係長の吉田と申します。よろしくお願いいたします。
保健福祉部管理課計画調整担当	同じく計画調整担当の岡部と申します。本日はよろしくお願いいたします。
区民生活部男女共同参画担	以上で「連絡事項」の次第2は終わらせていただきます。会長、このまま次第3の「審議会運営の確認」に進ませていただければ幸いです。

<p>当課長</p>	<p>ようか。</p> <p>ありがとうございます。次第3の「審議会の運営について」になります。前回に続きまして、本審議会は公開でございます。第1回の記録及び資料は全て既に区のホームページに掲載されておりますが、本日も記録のために録音させていただいておりますので、ご了承のほどお願いいたします。そして第2回終了後は、前回同様また皆様に会議録のご確認を頂くこととなりますので、ご協力のほどお願いいたします。</p> <p>そしてもう1点だけ、運営についてご連絡がございます。お手元の資料3「傍聴される方へのお願い」という資料をお出しいただけますでしょうか。前回、撮影についていろいろお諮りいただきご意見も頂きましたので、一部資料の変更をさせていただいておりますので、その点について事務局からご説明させていただきます。</p>
<p>区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長</p>	<p>それでは、私から傍聴ルールについてご説明させていただきます。改めて資料3を御覧ください。傍聴ルールにつきましては、第1回での委員のご意見を踏まえ、改めて事務局案を作成し、先般、委員の皆様にもご確認いただいたところかと思っております。既に御覧いただいておりますが、変更点は傍聴人受付の際にお渡しするご案内及びパソコンの持ち込み使用・撮影申請書に、この後申し上げる2点を記載したものでございます。1つ目、携帯電話、パソコンの持ち込み使用及び撮影使用に当たっては、申請の上、審議会の決により許可すること。会場に入ったら直ちに使用・撮影できるものではない旨を改めて明記いたしました。2つ目、撮影の許可、不許可の決定を行う際の参考とするため、傍聴人から提出される申請書に、撮影目的を記載していただくことといたしました。</p> <p>このことを踏まえ、本日いらっしゃる傍聴人の方には、審議会の決により機器の使用が認められること、写真を撮影する場合は会場全景を撮影いただくこととし、特定の個人が識別できないようご注意くださいようお願いしております。</p> <p>ただいま申し上げた内容で、本日のパソコン等の機器使用・写真撮影の申請につきましては、この後、会長から皆様にお諮りいただければと存じます。私からは以上でございます。</p>
<p>村松会長</p>	<p>ありがとうございました。ただいま、事務局から傍聴ルールについてのご説明がありました。前回の流れを踏まえ、改めてルールの明確化を図ってくださったものと思っております。</p> <p>本日は2名の方から、記録のためにということで撮影の申請が出ております。撮影に当たっては傍聴席より会場全景を撮影いただき、個人の識別ができないよう撮影することをお願いすることとし、この申請についての許可はオンラインの方も含めて本日出席している委員の過半数の挙手をもって決定することといたします。可否同数の場合は会長が決するのだそうです。</p> <p>それでは、本日の審議会の様子を撮影することを許可してよろしいかどうかお諮りします。よろしいでしょうか。では、賛成いただける方は挙手をお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。全員からの挙手がありましたので、撮影を許可いたします。傍聴人の方は先ほど申し上げたとおり、傍聴席より会場全景を撮影いただき、個人識別ができないようお願いいたします。もし私が「おやめください」と言う事態になりましたときには撮影を終了してください。では、どうぞ撮影していただき結構でございます。</p> <p>では、次第4に移ります。次第4は「議題及び報告事項」でございます。まず、議題4(1)「第1回の確認事項について」事務局からご説明をお願いいたします。</p>
<p>区民生活部男女共同参画担</p>	<p>それでは、「第1回確認事項」の資料のご説明を差し上げます。先ほどご確認いただいた資料の中から、順次ご説明させていただきます。まず</p>

<p>当課長</p>	<p>参考資料1についてご説明させていただきます。</p> <p>お手元に、「第1回審議会でごいただいたご質問について」という資料を御覧ください。こちらにつきましては、前回審議会の中でご質問いただいたものを議事録で確認させていただきまして、お答えさせていただいたものです。そして、参考としてこのような情報もあつたらいいのかなということも少し添えさせていただいた内容になっております。当日その場でお答えできればよかったですけれども、少し遅くなってしまったことをお詫び申し上げます。</p> <p>続きまして、資料4を御覧いただけますでしょうか。こちらは、「第1回審議会でごいただいたご意見について」となっております。前回様々なお話、ご意見がありましたので、議事録はかなり分量もありますので、それだけよりはどのようなご意見がどのような分野に当たるのかなということで、整理してみると分かりやすいのかということ、事務局で判断して仕分けさせていただいて、今日の議論の資料としていただけるかという考えでお作りしたものです。一部、重複しているところもありますが、内容的には「審議会の進め方について」、それから、「前提の部分についての整理について」、それから個別のテーマについて頂いた意見を分類した形になっております。</p> <p>5ページ目の「個別のテーマについて」というページからは、表の右に「関連領域」というところがありまして、これもあくまで目途として、頂いたご意見がこういった領域に当てはまるのかということ、前回ご提示した4つの柱の1つの参考にしなから書かせていただいたのですが、これはあくまで私のほうで記載したものでございますので参考として見ていただければと思います。ただ、このような形で資料を作らせていただいて改めて分かりましたのは、やはり1つのテーマについても領域は複数にまたがるものですので、こういった複数の領域にまたがるテーマについてどのようにお話をしていくかも、議論していただく資料になるかと考えております。この資料については以上になります。</p> <p>続きまして資料5です。こちらも前回の審議会で「ジェンダー平等」、「男女共同参画」、「性の多様性」、こういった軸となるテーマについて杉並区としてどのような定義を用いているのか、どのような考え方で取り組んでいるのかというご質問があったと考えまして、こちらの区の公式資料や基となる法律で資料等に記載している内容を用いてまとめさせていただいた資料です。</p> <p>「定義・理念」と書いてある列には、定義・理念として記載している内容。そして「目指すもの・目的」については、もう1段ブレイクダウンした内容。これは男女共同参画行動計画の「改定に当たって」というところの内容を記載しておりまして、下線の部分に区としての課題意識が記載されているという考え方で線を引かせていただきましたので、今、区がとらまえている課題はこのようなものがあるという参考として見ていただければと考えております。「性の多様性」につきましては、既に区で構えている条例の中から、理念に当たる部分と目的に当たる部分について一部抜き出して記載させていただいたということで、これも本日の議論のご参考としていただければと考えております。</p> <p>資料6については、これも前回ご意見がありました、諮問の中にある「課題」「未来像」「方策」について検討するに当たり、特に村松会長からのやはり枠組みを考えて進捗したほうがいいのかというご意見や、櫻井委員からの未来像をまずとらまえて、そこから課題を見ていく進め方もあるのではないかということがありましたので、それを1つフォーマットのような形にしまして、これも議論を進める際のツールという形で使っていただければいいのかなということで、事務局で作成したものでございます。</p> <p>そして最後の資料として、先ほどA3の資料として「後でご説明しま</p>
------------	--

	<p>す」と申し上げました『「4つの柱」仕分け一覧」と書いてあるものですが、実際に行動計画には具体的にどのような事業をしているのかということまでは書かれておりません。私たちは様々な部署で52の事業に取り組んでおりまして、それを年度ごとに進捗管理して、レポートングをしております。それを基に、これもあくまで仮の仕分けなのですが、前回ご提示した4つの柱に当たるかなというところを1つの目途として記載させていただいたものでございます。かなり具体的な事業が説明されておりますので、杉並区は男女共同参画行動計画としてこういう事業をやっているのだなということの資料としていただければと考えております。</p> <p>ただ、4つに全てしっかり当てはまるとは限らないところもありまして、かなり広い解釈で4つに分類しているスタイルになっているということをご承知おきいただければと考えております。その中で、このテーマではなくここでやはりまた新しい柱があるのではないかとか、テーマとして大きな軸はもう1つあるのではないかとという資料としてもお使いいただけるかもしれないと考えております。</p> <p>議題4(1)「第1回の確認事項について」ということで、第1回の整理や議題に関する資料ということでまとめさせていただいたものについて、ご説明は以上となります。</p>
村松会長	<p>ありがとうございました。今ご説明いただいた中の、資料6のシートがありましたよね。私がしゃべったことで作ってくださったらしいので、今日の議論もこの「未来像」だとか、前回も出していただいた課題みたいな話をさらにもう少し議論していきたいと思っておりますので、そのときのご自分用のメモとして使ってくださいでもいいのではないかなと思っております。</p> <p>以上、ご説明いただきました資料について事務局へのご質問はございますでしょうか。事前に送っていただいたので、さっとお目通しいただいているのではないかと思います、よろしいですか。</p> <p>それでは、議題を進めてよろしいですね。オンラインの方たちも大丈夫ですね。では、ここからが今日のいわば本題という感じなのでしょう。か。「第2回以降の進め方について」ということで、最初にも申し上げましたけれども、第1回でかなり具体的なご意見、あるいは大きな方向としてきちんと目指すべきものを少し議論したほうがいいのではないかとというお話があったかと思っております。</p> <p>今日頂いた意見などを完全に整理するところまでいくかどうかは分かりませんが、これまでのところを補強するためにも、整理していくためにも事務局と副会長と私で相談したことがあるのですが、先に今後の進め方としては、この前ご提案があったように、ジェンダー平等が実現した杉並区について未来像はどうあるべきかということなのですが、これ意見を言うのは結構難しいことではないかなという気がするのです。ただ、この審議会の目標である、最終答申を書かなければいけないときに、杉並区はこういうジェンダー平等の社会を目指しますということを書きと冒頭に書くことになるのではないかと思いますので、そこでこういうキーワードを入れてほしいとか、そういう部分的なことでも結構ですので、後で皆さんにご発言いただければなと思っております。そういう意味で審議会が目指す方向性についてご議論いただきたいと思っております。</p> <p>それから、個別の課題もこの間随分出されましたけど、さっきの資料で御覧いただいたように事務局も整理してくださっているので、これだけ幅広い課題が出てきたのだなと。答申は、課題の列挙なのか、どこまで深めたところを答申に書くのかがもう一工夫しなければいけないだろうなと思っておりますが、丁寧に書かなければいけない部分と、こういう課題もあると項目をかなり書ける部分があるのかもしれないなど、資料</p>

	<p>を読みながら思いました。</p> <p>そういうわけで今日はもう少し、課題あるいは未来像どちらでもいいので皆さんにご発言いただきたいと思うのですが、その前に1つ事務局とこちらで相談したことで、この前も例えばジェンダー平等の社会とはどういうことかみたいなことについて、誰かにレクチャーしてもらうのはどうかというご意見があったと思います。ここにはいろいろなそれぞれのお得意分野を持った委員の方たちがいらっしゃるのです、全員でなくてもいいのですけれども、何についてお話しいただきたいかということはこの後議論したいと思っておりますけど、その方たちに主だったテーマについてミニレクチャーみたいなことを、本当に1人15分とか、1回お2人くらいずつレクをしていただくことを考えてみたのですが、これについていかがでしょうか。</p> <p>うなずいてくださっている方がいらっしゃいますけれども、もしご賛同いただけるのなら、こういうことについてもう少し聞きたいということもこの後お出しいただければいいかなと思います。ありがとうございます。三戸さんがうなずいてくださっています。皆さん、よろしいですか。</p> <p>では、この前ワークショップをやったらどうかとかいろいろなご提案も頂いたのですが、ですから職員の方にもいろいろ発言していただく機会を作るみたいなご提案もあったと思います。その辺については、区としても少し検討されていらっしゃるそうなので、ワークショップ代わりではないですけど、ここで未来像の断片でもいいので、それかあるいはこの前言えなかった課題とか、付け加えるべきことがあるとか、新しい委員もいらっしゃるのです、それぞれについて短くご発言いただければと思います。こういった回しでよろしいですか。</p>
高見副会長	<p>すみません。皆様方に今日お願いしたいことということで、補足させていただきます。今日が第2回の審議会で、第8回までこの審議会を行う中でこれから具体的なテーマを深めていきたい思いがあります。どういうテーマを最終の答申に盛り込むのかは委員の中でのディスカッションで深めていきたいのですが、どういうテーマを出していくか、頭出しも今日やるべきことかなと考えております。この後皆様方に、ご自身のご関心で結構ですので、何かしらテーマというか、どういうことを最終の答申にまで持っていきたいかをそれぞれご発言いただきたいと思っております。</p> <p>その際に、今日資料6ということで『未来像』『課題』『方策』シートという区で用意していただいたものがございます。これは前回櫻井委員から、課題を考える前に杉並区は将来どうあるべきか、まず未来像があって、そこから、では現状どのような課題があって、どのように課題を解決していくかというプロセスで考えていけば分かりやすいのではないかと。私も賛同するところです。</p> <p>ですので、このシートは皆さんご自身で自由に活用いただいて、ご自身の関心にひきつけて、ジェンダー平等あるいは関連するテーマで杉並区はどうあるべきか、未来像についてご発言いただいた上で、現状にどのような課題があるか。それは個々の具体的なものでも結構ですし、大きなものでも結構ですので、そういうものをおっしゃっていただいて、どうしたらいいかをご発言いただければ、次回以降どういうテーマについて深めていくかが定まってくるものと思います。また、その際、今、会長からミニレクチャーというお話がありました。いろいろなご知見、専門を持った方にご参集いただいておりますので、その中から次回以降具体的な各テーマに沿って深めていきたいと思っております。今日は皆様方からそれぞれ前回の続きで結構ですので、少しご意見を頂いてテーマを設定していきたいという考えでございます。</p>

村松会長	<p>ありがとうございます。そしたら、ここからは皆さんでいろいろ意見交換する時間にしたいと思います。なるべく時間を取りたいと思っていますけれども、お1人の発言はそれぞれ簡潔にお願いしたいと思います。ご発言内容は未来像に関してでもいいし、それから課題でもいいし、あるいはこういうミニレクチャーを聞きたいとか、こういうテーマについて聞きたいということでも一緒に入ってきて構わないのではないかと思います。</p> <p>どこから行きましょうか。では、藤岡さんから。</p>
藤岡委員	<p>ありがとうございます。私から未来像とか課題とかその辺りについてご意見させていただければと思うのですが、まず1つ目が、やはりいろいろ見せていただく中で、杉並区がジェンダー平等を率先していただけるというのだろうなと思っています。区は、区役所という意味です。</p> <p>例えばできることとしては、管理職への女性登用を進めるですとか、やはり女性登用に至るためには働き方改革ですとか、あとはハラスメントといったことの予防みたいなことも必要になってくるかなと思っています。あとはこの辺りの数字が分かっていないのですが、私がシングルマザー支援の団体にいるところもあって、相談窓口を担っている相談員の方は結構非常勤のことが多いという問題があります。会計年度任用職員の方です。というところでは、会計年度任用職員を担っている方は結構女性が多いという問題があると思うのですが、そういったところの待遇改善といったところは進められるのかなと思っています。</p> <p>あとは、生活実態調査のところにもあるのですが、DV被害支援とかDV相談の認知度とかを載せていたところがあったと思うのですが、11 ページのところにも問 16 として「DV被害者支援として必要だと思う施策」という欄があると思うのですが、これは全員、一般の区民の方に聞いていただいている、もちろんそれも重要だとは思いますが、やはり当事者でないとは分からないことはたくさんあると思うのです。ですので、当事者調査とか、困難女性の方への実態調査とかいったところが必要になってくるのかなと思っています。</p> <p>すみません、3点目、最後になります。あとは被害とか加害を生まないための教育といったところが重要かなと思っているので、加害者支援ですとか、あと私はぜひ櫻井さんにレクチャーでSRHRとかいったところをお聞きしたいなと思っています。以上になります。</p>
村松会長	<p>ありがとうございました。では、岩田さんお願いします。</p>
岩田委員	<p>大きなテーマでどんな切り口があるのかというのを、全体を考えてしまっとなかなか発言が難しくなってしまうのですが、なので身近なところから申し上げます。</p> <p>弁護士会の性平等の委員会に所属しております。そこで派遣されて、今日はたまたま東京の葛飾区にある中学校で、3年生全員らしいのですが170名くらいの方にデートDVについての授業をやらせていただきました。そこではやはり大きな割と深い気づきがあるようでして、恋愛なんて中学生である私たちにはまだまだ先の話ではないかみたいになっていましたけれども、そうではないのだとか。あとは恋愛という関係にフォーカスを当てて話をしているのですが、通底する大事なところはお互いの人格を大事にすること。まず何よりも自分を大事にすることで相手のことを見て配慮することだなと。</p> <p>そういう姿勢があれば恋愛が怖いとか、DVの危険があるとか、ネットでの交流は怖いなといって躊躇するのではなくて、付き合いたい人と付き合っ、言いたいことを言って、その中でディスカッションすることで関係を構築していけばいいのかなと。これは恋愛に限らずいろいろ</p>

	<p>いゝな人間関係、上下の関係もあればお友達の関係もあれば、そういったところについてはふんふんとよく理解してくださったように思います。やはり教育の過程というのは非常に大事だなと思っています。</p> <p>それから、前回のご意見の中で、山田委員からカスハラの問題も女性が被害者になっている度合いが高いというご指摘がありました。これは弁護士会の委員会でも、一部のグループでカスタマーハラスメントに関する本を出版しようとしておまして、関心が深いところでございます。非正規公務員とも重なるところですけれども、やはり非正規労働者は女性が多いし、非正規の問題は大ざっぱに言えば女性の問題でもあると。その中でもカスハラ被害に遭うようなケアの労働は特に女性の割合が高い。そういう視点でなるべく執筆の内容も刺さるものにしたいて考えておるところです。</p> <p>ばらばらとすみません。まとまりないですけど、もう2点だけ。1つは、今日もやはり感じたのですけれども、学校の現場での校長先生とか教頭先生は女性が少ないという印象です。また、女性で管理職をやられている人はなぜか体育の教師、体育の専門の方が多かたりとか、キャラがあるのか組織のつながりがあるのか、ということも疑問に感じています。区の行政としては、職員の人事のほか、学校における人事についても一定の影響は及びし得ると思うので、そういう視点は大事にされればいいのかなど。</p> <p>ごめんなさい。それから、あとは大きなところでの質問なのですけれども、区が政策を立案して実現していく上では、区議会の存在も大きく、無視はできないと思うのですけど、その辺りはこの審議会でもどこまで問題にするものなのか。あるいは、それはそれとして触れないで、そこから先は本当に行政とか議会、首長の政治行政の問題だと考えればいいのか、つまり審議会では基本的にはテーマから外すということでもいいのかというのは、その点を少し質問したいと思っておりました。</p> <p>以上でございます。</p>
村松会長	議会の扱いについては、区のご意向を。
区民生活部長	区議会のお話についても、ジェンダー平等に関する話であればあえて避けることはなくていいかと思いますが、どういった話題になるかというのはありますけど、例えば議会の議員の構成ですとか、そうしたお話も審議会のご意見として委員の方から頂く分にはいいかなと思います。ただ、それは区民が選挙で選んでなっている方なので、そこをどこまで追えるかというのはありますけれども、そのご意見を委員から頂く分には問題はないかなと思いますので、よろしく願いいたします。
村松会長	今度は横山さんいいですか。お願いします。
横山委員	<p>私から1つ初歩的で基本的なことを質問したいと思うのですが、ジェンダー平等という「平等」は一体何か。極端に男性が多いところ、極端に女性が多いところを半々にするのが平等なのか。やはり女性は妊娠とか出産とか男性にはない大変さがありますから、そういうところを踏まえて平等のことを考えるのか。そうすると女性に向けた職業になるのか、男性に向けた職業になるのか。そうするとやはりそれは平等に反するのだというので、ジェンダー平等の「平等」の範囲を僕は考える必要があると思います。</p> <p>それからもう1つはジェンダーというと、私は人権相談をやっていて、中身は守秘義務で言えないのですけれども、やはり今は心と体が一致しない人と、それから男性でもないし女性でもない。でも、男性でもあるし女性でもあるという悩みを打ち明けてくれて、職場に知られてしまって非常にづらい思いをしている人がいるのです。そうすると、そのジェンダーの中に男性、女性もそうだけれども、それだとLGBTではない</p>

	<p>ですけど、多様な性のことについて課題が幾つも潜んでいるのではないかという気がいたしました。その平等の中身を、少し皆さんで共通理解をする必要があると思います。</p> <p>それから学校のことでいうと、前回杉並区の小中学校の校長の割合が話題になりましたので私も話しますと、教員の大体6割が女性です。でもやはり東京でも女性の小学校長は25%くらい。杉並区は少し多くて小学校の校長の36.8%が女性です。ただ、石川県などはもう小学校校長の半数近くが女性です。それで全然問題ないので、そういう女性校長の多い県はどうなっているのかという中身を知りたい。女性の小学校長が7%しかいない県もありますが、それは置いておいて、やはり女性校長の多い県は一体どのようなになっているのか。そういうものを調べていくのも必要ではないかと思いました。そういったことを考えながら、皆さんでいろいろな事例のほうで調べていくと、課題が見つかるのではないかという気がいたします。</p> <p>以上です。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。ジェンダー平等とはというところの辺りについては、前回からも議論になっていますので、この後また議論していくテーマとして大事なところだと思っています。</p>
三戸委員	<p>ありがとうございます。横浜委員のおっしゃっていたところに少し重ねてお話しさせていただけたらと思っています。今回「用語の定義と区が目指すものについて」で、「ジェンダー平等」と「性の多様性」について分けて書いていただいているのですが、ぜひジェンダー平等の中で「性別にかかわらず」だけではなく、「性別や性的指向、性自認にかかわらず」としていただくのがいいのではないかなと思っています。おっしゃっていただいたとおり、性別は男女だけではない中で、あらゆる性の在り方の方が想定される地域を目指していく意味でも、今回男女平等という言葉ではなくてジェンダー平等という言葉を選んでいただいたところに、そういった背景もあるのではないかと考えておりますので、ぜひジェンダー平等の中に「性別、性的指向、性自認にかかわらず」という形で入れていただきたいと思っています。</p> <p>加えて、少しお話しさせていただきます。資料7の「区の男女共同参画行動計画52事業」の中で、様々な事業を進めていただいていることをすごく心強いなと思っています。一部の事業の中で、「男女共同参画の推進」としていただいているところがあるのですが、こちらも「ジェンダー平等の推進」としていただくのがいいのではないかなと思っています。男性ですとか女性だけではなく、あらゆるジェンダーの方が同じように困りやすい。例えば地域防災などに関して、いわゆるLGBTQも困りやすいといわれているので、そういったところも含めて考えていただける素地を作っていく意味で、「ジェンダー平等を推進していく」とやっていただけるとうれしいなと思っています。</p> <p>さらに未来像についてなのですが、杉並区で行われるあらゆる施策の中で、ジェンダー平等の観点が反映されている状態を目指していくといったところが理想かなと思っています。前回もお伝えしたのですが、ジェンダー平等の所管課の皆さんだけが行えばいいものではないと思っていますので、本日もいろいろな課の皆さんにご参加いただきますが、福祉の中でとか、子育ての中でとか、防災の中であらゆる施策の中でジェンダー平等について一通りちゃんと考えた上で、施策が実施されている状態ということが未来としてあるといいなと思っています。そういった地域として、あらゆるいろいろな生き方が想定されたり、性別とか性的指向、性自認によらず自分らしい生き方が選択できる地域ということが未来としてあると、私もうれしいなと思っていますので、そういったところを目指していけるとうれしいなと思っています。</p> <p>以上です。</p>

村松会長	<p>ありがとうございました。具体的な文言のこともご提案いただいてありがとうございます。答申に盛り込んでいく言葉がいっぱい出てきたかなという気がします。</p> <p>オンラインの方たちにも発言していただこうかしら。山田さんが私から見ると上に出ているのですけど、山田さんお願いできますか。</p>
山田委員	<p>今日は長野県からの参加なのですけれども、よろしく願いいたします。</p> <p>私も前回言ったこととほとんど同じなのですけれども、やはり地域社会における男女共同参画を進める際に、いわゆる中間集団が大事なのではないかと。中間集団を課題にしなくてはいけないのではないかというのが私のまず第1番目の関心です。</p> <p>公的な場に、一般の職場であるとか、政治の世界、もちろんまだ不十分なのですけれども、一応関心があって道筋もつけられています。またいわゆる私的な部分、主に家庭ですけれども、デートDVも私的な部分ですけれども、そういう家庭でまだ男女平等とか女性だけに押しつけられる家事とか、DVとか、そういうことに関しても関心は高まって道筋が作られている。</p> <p>では何が抜け落ちているかということ、いわゆる地域社会における中間集団における男女平等がなかなか進まないのであると。よくいわれるのが、いわゆる町内会長がほとんど男性ばかりであると。だけど、下働きはほとんど女性が担っている。PTA会長は都市部ではかなり改善されてきましたけれども、そういういわゆる公的なものでもなく、また家庭でもない場面でも男女平等を実現するべきではないか。例えば商工会や、もちろん杉並区だと青年団とか農業委員会はないとは思いますが、要するに住宅部ですと町内会とか商工会ですよね。PTAもそうなのですけれども、そういうところでの男女、女性の活躍が、女性だけに下働きが、という構造がある。となれば、これは国の審議会でも問題にしていますけれども、そういうところに逆にいわゆる地方自治体がアプローチできるか、地方自治体しかそういうところにアプローチできないのではないかなというお話です。</p> <p>これは余談ですけれども、今セクハラに関しても、大学におけるセクハラで相談が一番多いのは、教員等から学生へのセクハラではなくて、これはもう厳しくなっておりますので、もちろんないわけではないのですが、学生からの相談で一番多いのはサークル関係なのです。サークル関係で先輩からひどいことを言われたとか、サークルの飲み会では女性がお酌しろと言われるとか、特にスポーツ系のサークルにおいてはもう女性は下働き要員であるとか。あとは体育会系で先輩男性から指導と言われて体を触られたとか、そういうことがあるのです。だからいわゆる職場とか、授業とかそういうところであれば、いくらでも訴えて改善を見込める手だてがあるのに、そういう中間集団ですよね。私はある別の区の審議会で出会った先生で、「中小企業の商工会ではセクハラし放題です」と、女性の商工会の委員の人から言われたこともあります。だから逆にいえばアプローチがすごく難しいのです。</p> <p>私が政府の審議会に行った例なのですけれども、学生が地元で本家の法事で帰ったら、男性は全部上げ膳据え膳で、女性は年配者も若い女性も全部お酌とか食事の用意に駆り出されている。もうこんな地元には二度と帰らないと誓ったという現実もあります。というように、せつかく自治体でやるのですから、それに町内会をはじめとした中間集団へのアプローチを1つ考えたらいかがかなというのが私の1つの提案です。</p> <p>あと前回と同じですけれども、職場によっておけるハラスメントといった場合、これは岩田委員がおっしゃったように、いわゆるカスハラと。カスタマーハラスメントとしてのセクハラだと。つまり患者とか、介護されている側が、看護師さんや介護士さんへのセクハラというのが、な</p>

	<p>かなか問題にされず野放しにされているという現状がある。さらには、仕事ですとパートとかそういうところに焦点は当たっていますけれども、前回言ったようになかなか焦点は当たらない、いわゆる夜の接客業の人たちを弱者として扱っておかなければいけないのだという視点を1つ課題にしたらいいのではと思っております。</p> <p>以上です。ありがとうございました。</p>
村松会長	<p>具体的な課題の提言をありがとうございました。続いて櫻井さん、いかがでしょうか。</p>
櫻井委員	<p>私は今この議論は何の時間なのだったけというところが、若干迷子になっているというのが率直なところなのですけれども、いろいろなことをお話ししていくのがこの場であり、今日資料として用意していただいた未来像、課題だったり、何をしていくかみたいところは多分今、杉並区の現状だったりとか、既に行われていることをジェンダー視点で点検していく作業が必要なのかなと思っております。</p> <p>先ほども出ていたように、男女共同参画、ジェンダーに関する分野の方たちだけが取り組むのではなくて、もっと杉並区全体に広げていく。いわゆるジェンダー主流化を目指していくのがもしこの審議会の役目だとすると、どう主流化できるのかとか、そのために今の現状をしっかりと捉えていくというところを、1回目もそうですし、今回もいろいろなデータをご提供いただいていると思うのですけれども、多分前回も皆さんがそれぞれに持った問題意識の中で、恐らくそれが杉並区でどうなのかというところを見ていくのが、多分満遍なく必要なのか、やっていくのか。またはどこかにフォーカスしていくのかというところはありつつも、やはりそれを洗い出していく、点検していく作業も必要かなと思いました。</p> <p>今は多分、各委員の興味、関心で深めていくのも大事だなと思いつつ、ここにメンバーがたくさんいるようで、このメンバーだけだと全てのテーマを網羅できないというところもあって、若干偏りが出てしまうのではないかなという点が心配もありますので、もう少し全体像が見えていけるような課題感を含めて、ほかの担当課だったりの方の課題感も含めてですけど、お聞きできたりするとよいかと個人的に思いました。ジェンダーに関するインプットというところはもちろんなのですが、区の方の問題意識といいますか。どこに杉並区として問題意識があって、それをどうしていったらいいのだろうという、多分ここがこの場で考えていくところだと思うので、その辺りの差分を埋めていくところにこの場を使えると個人的にはいいなと思いました。</p> <p>すみません。まとまっていらないのですけれども、以上です。</p>
村松会長	<p>ありがとうございました。新しい視点からのご提言ありがとうございます。職員の話も聞きたいということは、この前も出ていましたけれども、あらゆる施策をジェンダー視点で分析していくみたいなことは確かに大事なことだけど、実際問題全部が全部できるかどうかということもあるかと思えます。区のほうでコメントはありますか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>ありがとうございました。大切な視点だと思います。1つには、三戸委員からもワークショップといいますか、職員が参加できる議論のスタイルはないかというお話があったことと、櫻井委員がおっしゃったのはジェンダー平等の課題について様々な所管の情報を得る機会があればいいのではないかという2つのことだと思います。いずれも私どもの男女共同参画担当の所管を超えて、全庁としてアプローチをどうするかという2つの視点を頂いたと思っております。前回同様なお話を頂いてからも、どのような形でそれができるのかなという議論そのものは私どもの部署でもしております。</p> <p>どういう形でというのが、今まだ結論が出ていないのでお示しできな</p>

	<p>いのですけれども、今2種類の視点を示していただいた中で、情報提供のスタイルについては考えてみたいと思います。次回何らかをお示しできればと思っておりますし、事前資料の段階でもお伝えできればと思いますので、一旦お預かりさせていただければと思います。</p>
村松会長	<p>よろしくお祈いします。櫻井さんありがとうございました。そうしましたら、会場に戻って岩橋さんお祈いします。</p>
岩橋委員	<p>今までの皆様のお話を聞きながら、一応杉女連でこのように取り組んできたというか、こういう体験をしてきたという話をしたいと思うのですが、私が初めて区議会を傍聴したのが20代の頃で、そのとき一番若い区政モニターだったのですが、区議会を傍聴して、おじさんばかりでした。今は男女半々になりました。これは大きいです。首長が女性というのはそれなりにもうあちこちで実績があると思うのですが、「杉並区は区長さんがすごいね」と言われるから、「区議会が半分なのだよ」と、それは自慢しております。</p> <p>それから区の女性の非常勤の問題は、もう20年くらい前に杉女連のメンバーの中に、やはり保育士さんで、非常勤で3年だったかでやめなければいけないということで、抗議活動している人がいて、そこにまた正式に公務員としての保育士さんも入ってきて、いろいろ一緒に議論したことがあります。</p> <p>それから、杉並区は男女共同参画都市宣言だけしていて条例がないということで、私たちはずっと条例を作ってほしいと運動してきたのですが、男女共同参画が法律でできてうたわれたのが90年代ですよ。でも、杉並区のセンターは男女平等推進センターだと。これは当時の区の職員の方も頑張ってくださって、「平等」という文字が入りました。それを「ジェンダー平等」にすべきだと私も賛成なのですが、理念として男女共同参画だけではなくてジェンダー平等だというのを、私たちは経験として腑に落ちたところがあるのですが、初めは杉女連に男子校を出ただけで女性として生きたいという方が来てくださって、いろいろお話しなされたのです。手術を受けないと女性として認められないとか、すごく大変な経験をなさっている話をなさって、私たちもそれぞれの自分の経験を話したのですが、それはみんな男女差別の話だったのです。だから、本当の性の不一致というか、そこがそのときは理解できなかった。</p> <p>ところが、今、当事者として活動していらっしゃるグループが杉女連のメンバーとして入ってくださったので、本当にジェンダー平等そのものがとてもよく分かるようになりました。だから、やはり出会う、一緒に動くことで理解し合えるなということが本当に分かりました。</p> <p>最初の大変だった方は、杉女連主催で防災のシンポジウムをやったことがあるのですが、そこでも話をしてもらったのだけれども、なかなかその当時としてはすごく先鋭なテーマという感じだったけど、今は男女平等推進センターで、みんなで仲よくやろうと、ジェンダー平等でそれぞれやりましょうと、若い人たちも気楽に相談に来てくれる場を作ろうという感じになっています。</p> <p>それから、また私たちのグループの内部の私ではない人の自慢ですが、消防団に入って頑張っている方がいて、彼女は町会を目指して今、消防団に入ってやるのだという人もいます。ということですが、社会はこのようにここ数十年で随分変わっているのだけれども、選択的夫婦別姓が通りません。これはものすごく、戸籍制度というものに対する執着というか固執というか、日本の社会は戸籍がなければという。それが変われば今この間、進んできたみんなの意識だとか、生活態度だとか、実際に社会の働き方とかが変わっているわけですから、法律が社会に追いついてくると思うのですが、今は後ろからぎゅうぎゅう引っ張られている感じがずっとあって、それは区のレベルではできないことかもしれ</p>

	<p>ないけど、みんながみんなで事実婚してしまえばいいだけの話なのですが、やはり何とかしないと。その法律を1つ超えられれば、政治が社会に追いついてくると思います。</p>
村松会長	<p>いろいろ具体的な提言をありがとうございました。今、ご発言の中で、「ジェンダー平等条例みたいなものは」という言葉、「条例」という言葉が出てきました。多分ジェンダー平等を推進していくことを考えたときに、やはり法的裏づけといますか、その種のものは欲しいのではないかと、この答申の中でその辺をどのように扱っていくかも後ほど改めて意見交換したいと思います。</p> <p>では、最後になりました。赤池さんお願いします。</p>
赤池委員	<p>今伺っただけで大変勉強になりました。ありがとうございます。</p> <p>私も今まで伺ったお話を引き受けて幾つかお伝えしたいことがあります。まず今、村松会長がおっしゃった、条例を作るか作らないかという問題です。私はPTAに関心を持っていて、あとさっき申しさされましたが、社会教育委員を少し前まで6年拝命しておりました。その同時期というか、村松さんが会長をなさっていたときにもですけど、男女共同参画区民懇談会委員を10年くらい担っていました。</p> <p>地域活動しながら、その編集の仕事もしながら、区のいろいろなところに顔を出しながらこれまで来たのですが、前回の議事録にもあります、女性の社会教育、社会活動が本当にすごい。これが戦後からあったからこそ現代があると。その連続性に関しては強く感じております。</p> <p>私はさっきイクメンになる活動もしていたと申し上げましたけれども、男女平等推進センターの委託講座も十何年くらい受諾しているのですが、そこで2012年に父親の育休という講座を行い、2013年の「ゆうCan」という区の男女平等推進センターが出している冊子で紹介されました。当時育休の取得率が2.何%でした。杉並区の懇談会でもそのような話題をしたこともありましたが、0.何%台とまだ時代の時代でした。翻って12年たって、現在30%です。なので、時代は変わるということも1つある一方で、男女の問題はたかだか100年くらいかと思われませんが、非常に根深い問題で、杉女連さんたちがこうやって活動なさってきて、でもいまだに様々な格差があると。とりわけ藤岡さんなどもよくやっていらっしゃると思うのですが、ひとり親家庭の貧困率は、女性は5割です。この物価高騰の中で、かなり困難な層が生まれていると。今後を見据えるならば、格差はますます拡大すると思われま。なので、ディーセントワーク、あとケアの問題をどうするかはぜひ議論したいなど。</p> <p>私たちの活動を始めたきっかけとしても、明らかに人口構成が変わります。20年先を見据えて、では今、何をすべきかということで団体を立ち上げました。なぜかという、私たちの世代が団塊ジュニアなので、もうそれこそ何十年たったら一番人口ボリュームゾーンになり、ではこの人たちはどうするのですかと。なったときに、自分たちの生活も本当にどうすればいいのかという課題もある。その中で男性も無論ケアに携わることが必然的に必要になってくることを見た上で、そのような講座を行い、さっき山田先生が中間集団とおっしゃいましたけれども、講座を通して発信して、それを受講してくださった方たちやメンバーとともに活動継続していくことによって、少しずつ広がっていく。その様子をこの15年見てきた次第です。</p> <p>私はその関心から、3年くらい前に大学院の修士を修了したのですが、社会教育とジェンダーを専門の先生のところでも学びました。国立の婦人問題学習、1965年から公民館で始まった託児つき講座を初めて行った、それを長年研究している研究者であります。そのような、本当に時代をかなり重ねてきた上で現代があるというのは本当にそのとおりであって、さっき三戸さんがおっしゃったジェンダー平等。ジェンダーという言葉で、無論、性は多様なのだと。当然私もそう思っております。</p>

	<p>すが、ただ、なかなかこれは私の所属している研究会でも、ではジェンダーといったときにジェンダー平等だけでくれるのか、まだまだ男女平等という概念も必要なのではないかと。ジェンダー公正ということは、私が所属している研究会では併記で使っておるところです。なので、もう少しその辺は丁寧に議論する必要があるかなと考えています。</p> <p>あともう1点は、なぜ暴力が起きるのか。これは権力の問題であって、なぜそういう権力構造が生まれるのか。それは社会の今の仕組み、成り立ちがそうなっているからであって、やはりそれを学ぶ場はまだ不足しているのかもしれませんが。なので、私は自分の専門領域にも引きつけてですけども、大人が学ぶ。特に私たちの世代と、わりと若い世代。私も高校に行っていますけど、彼ら、彼女らはLGBTQなんて言葉はもうみんな知っています。どちらかという知らないのは大人、保護者の世代であったりします。なので、誰が学ばなくてはいけないのかというのは、自明のものであるのかなということで、そういう学びの場をどう構築していくか。その中にジェンダーの視点をどう組み込んでいくか。</p> <p>学校教育だけではない、これは社会教育の領域ですけども、あるいは子育て支援などの領域でも必要なのではないかと考え、さっきPTAの話も出ていましたけど、どうやってなぜか母親が前提で議論が進んでいる。ただ杉並の場合は、PTAは大分前からほぼ100%女性だったりして、女性会長の全国平均は17.4%くらいなのです。でも戦後早くにもう女性会長が誕生していました。2000年くらいからほぼ女性会長という。今、最近ではサラリーマン男性会長も増えてはきているのですが、そんな地域でございます。その辺も踏まえて、また皆さんと議論できたらと思います。</p> <p>すみません、あともう1点だけ。条例に関して最初に言おうと思ったのだけど飛んでしまったのですが、私はスペインとかに関心を持ってまして、あと最近南アフリカのこと調べたのですが、スペインという土地は、少し行っていたこともあるのですが、1978年に憲法ができます。それまではフランコ政権という保守政権で、彼が死去したところから時代が変わるわけなのですが、そのときにもう憲法の中に男女平等とか、あと人種差別をしないということが入ってきています。南アフリカもこれは同じで、1994年に民主化するわけなのですが、これは女性の草の根の運動の力が非常に大きかったと。</p> <p>スペインも南アフリカも、同性婚も早いのです。スペインが多分世界で3番目。南アフリカが2006年に5番目。これもやはり、法の理念の中にそれは入っていているという話です。私は法の専門家でもないのですが、むしろご専門の方に伺いたいところですが、そんな事例もございまして、ということを紹介しておきます。</p> <p>以上です。</p>
村松会長	<p>ありがとうございました。皆さん、いろいろな角度からのご発言ありがとうございました。今日は一応8時半くらいまでを目途に思っているのですが、休憩なしでという打合せだったのです。申し訳ないのですが、5分だけここで休憩を取らせていただきたいと思います。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>承知しました。よろしく願いいたします。では、今20分ですので、25分ということで一旦休憩を入れさせていただきます。ありがとうございました。</p>
	(休憩)
村松会長	<p>すみません。急に休憩に入らせていただきました。再開させていただいてよろしいでしょうか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>はい、お願いします。</p>

村松会長	<p>オンラインの方たちも大丈夫でしょうか。</p> <p>では、再開したいと思います。よろしく願いいたします。今、皆さんにご発言いただいて、前回とかなりかぶる部分もありましたけど、課題がいろいろ出てきたり、具体的な話、それから新しい視点も出てきたかなと思います。それから、掘り下げ切れなかったところもあるかと思いますが、これを整理するのはまた事務局と少しさせていただくことにして、今日の課題の中では最初に提案したミニレクチャーの話が、どなたかやったださる話もあったかもしれませんが、その辺りの議論を少しこの後、進めていきたいと思います。</p> <p>ここからは今度、高見さんに司会をやっていただいていたいいですか。</p>
高見副会長	<p>皆様から貴重な多方面からの意見を頂きまして、今後どう進めていくかを議論していきたいと考えております。今日は、私どもで予定している内容は、各委員から改めてどういう問題意識をお持ちかをお伺いした上で、次回以降どういうテーマを1個1個議論していくかを決めていくというものでございます。</p> <p>今お話を伺って、私も十分に整理できないところはございますが、1つの軸としてジェンダーあるいは男女という形で各委員がどういう切り口で考えていらっしゃるかは、いろいろあったかなと。男女でまだ不平等があるという問題も当然あり、そういう意見も頂きました。それと合わせて、三戸委員など性の多様性、男女ではなくてジェンダー平等という切り口で議論すべきだという意見も頂きました。</p> <p>私が不勉強なだけかもしれませんが、ジェンダーに関する問題意識は一般にすぐ十分理解できるものではないところもありますので、そこはやはりどこかで審議会としても整理しなければいけないかなと。その上でジェンダー平等のあり方の話に進んでいくと。横山委員からもというのが平等の在り方なのかと問題提起がありました。私もそれについてはやはりよく考えないといけないと思います。具体的な課題と方策を考えるためには、どういう平等であるべきなのかは当然議論しなければいけない。その前に、男女なのかジェンダーなのかという話はどこかで整理しなければいけないと考えます。</p> <p>その上で次回以降どういうものを深めていくかというときに、ミニレクというものを先ほど会長から提案させていただきました。ミニレクというのは、この委員の中で専門的な知見を持つ方が何かしら話題提供、情報提供した上で議論する形にしたいと思うのですが、私の意見としては、まずジェンダー、ジェンダー平等とは何かという根本的なものを議論したいのと、あとは男女ではなくジェンダーというのはどういう考え方なのかについて話題提供してほしいのが、希望としてあります。その上で平等の在り方を、具体的なものについて考えていき、その後の回では具体的なアプローチに進められれば。先ほど山田委員からも中間集団というお話がありましたし、教育現場について問題提起された委員もありました。そういう具体的な問題にどのようにアプローチしていくか、考えていく段階が1つあり得るかなと考えるところでございます。</p> <p>先ほど櫻井委員からも、区の施策をジェンダー平等の視点から点検するというお話がありました。それもジェンダー平等とは何かというものを1回この審議会としても考え方を議論した上で、その観点から現在の区の施策はどういう課題があるのか、どういう状況なのかを考えるのは意義があるかなと思います。</p> <p>ですので、まず今日決めなくてはいけないのは、次回どういうテーマから入っていくかについて皆様から意見を頂ければと思うのですが、何かご意見ございますか。例えばレクチャーいただきたい委員とかテーマについて、今、私から申し上げましたけれども、希望があれば遠慮なく今、頂ければと思うのですが。どなたからでも結構です。</p>

村松会長	<p>ありがとうございました。今ジェンダーとは、あるいはジェンダー平等とは何かというところ自体を1回話す場というのは前々からありましたので、1回ミニレクという形にするかどうかですけれども、誰かが話題提供してやったほうがいいのかなとは思いますが。</p> <p>まず少し、こういうテーマをやってもらえないかという希望と、あるいは必要ではないかというご提案を少し出し合って、誰ならそれをやっていただけるだろうかという辺りも議論できればと思いますけれども、何かアイデアがある方があったら手を挙げていただけますか。これから答申にまとめていくために、このところを詰め切っていないからここについてはもう少しレクチャーを知りたい。あるいは、実態を知らないから知りたい。あるいは、区の側にいろいろ質問もあったので、区の間組状況とかその辺を1回話していただくのも。それを一番にやるのほうがいいのかなという気もしますけれども、まだ早過ぎますか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>前回複数の方から専門領域について、例えば今のトレンドでありますとか、そういった情報を入れたところにより議論が深まるのではないかとのお話があったと思ひまして、事務局では情報提供ということでそういう時間を設けるのは可能ではないかと一旦お返事させていただいたところでございます。</p> <p>先ほど私もメモを取らせていただいたのですが、非常に広範囲の、例えば女性管理職、ハラスメント、非正規、それから地域社会など前回お示しいただいた皆様の課題が、再度少しフォーカスされてキーワードになって出てきたのかなということで拝見しておりました。1つ1つが重いといえますか、大きなテーマですので、実際そこに現実的にどんな本質的な問題があるのかの情報があつたほうが議論が深まる、もしくはご自分が皆様に情報をお示ししたいということがありましたら、その時間を設けることができると考えております。</p> <p>では、私どもから何かできるかということになりますと、先ほど何度か性の多様性というテーマのお話もありまして、こちらの資料の中にも性の多様性条例や、運用しているパートナーシップ制度の情報も入れさせていただいております。特にパートナーシップ制度はご存じのとおり自治体単位で運用されている制度でございます。ですので、少しずつ自治体ごとに異なっているところもあるかとは思いますが、では杉並区としてどのような制度の運用を行っているのかという、事前に手引きという形で皆様に前回資料はお示ししておりますが、少し深まった情報が得られたらというご要望があれば、事務局でも機会を頂ければ行うことはできると考えております。</p>
村松会長	<p>これまでもいろいろ資料は提供していただいているのですけれども、一度区の間組としてどの辺がどういうことになっているのか。もう柱も出していただいておりますが、それから、さっき条例の話などが出ましたけど、都内では条例を持っている区もたくさんありますし、その辺についても少しまとめて区に1回情報提供いただくのはどうでしょうか。早いほうがいいのか、途中でいいのかは別として、事務局にも1回お願いするということがあります。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>承知いたしました。確かに特別区ではかなり以前に作られた条例は男女平等条例とか、男女共同参画条例という名称ですが、昨今これはジェンダー平等という名称で条例化されている流れがあるのはもちろん皆様ご存じのことと思いますが、そういった点について情報提供といえますか、事実をまとめた形でお示しすることはもちろん、事務局でもさせていただきます。</p>
村松会長	<p>よろしく願いいたします。だんだん言葉遣いも変わってきているというのがあるかなと思います。</p>
高見副会長	<p>今、男女平等ではなくジェンダー平等という考え方に変わっていると</p>

	<p>いうお話がありました。個人的な希望ではありますが、三戸委員から、ジェンダー平等について最先端の考え方というか。ご活動の中で考えていらっしゃることを、情報提供いただく機会があれば、私はこの審議会がジェンダー平等を考えると前に進むのではないかなと思うのです。1つの希望として申し上げます。</p>
三戸委員	<p>ジェンダー平等という大きなくくりで話せるかは少し自信がないのですが、性的マイノリティとかLGBTQに関して地域の中でどうということが困りやすいのかというところと、多様な性の考え方についてであれば少しお話しできるかなと思いますので、お力添えできればうれしいです。</p>
村松会長	<p>では、ぜひ前向きにお願いしたいと思います。どのように進めるかはまた事務局と全体のプランを少し練ってと思います。</p> <p>私も提案したいと思うのですが、さっき岩橋さんが杉並区の女性の社会教育や社会活動の歴史の話をして、私も本当にそう思うのです。区民ではない方もいらっしゃるの、ぜひ一度その話は共有したほうがいいのではないかなと思うので、岩橋さんに一度お話ししていただくはどうでしょうか。</p>
岩橋委員	<p>思い出したことをべらべらしゃべっているだけなのですが、でも別に秘密はないので。</p>
村松会長	<p>入れさせていただきます。ありがとうございます。</p> <p>ほかに、そのように指名でもいいし自らでもいいし、この話をというのがありましたら。それから答申を考えていく上で、このところをもう少し詰めたほうがいいかなというところがあります。前回も今回も教育の話はかなり出てきているかなという気がするの、赤池さんもいらしたことだし、教育のことだったら一応私も手伝えるかなと思いますので、一度教育をここでやりますか。今の区の問題だとか、私がコミュニティ・スクールで関わっていた学校もPTA会長はずっと女性だったのです。2代目から全部女性なのです。今年初めて男性になった。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>すみません。先ほど藤岡委員が櫻井委員に、テーマでSRHRというお話もありましたけど、大丈夫でしょうか。</p>
高見副会長	<p>藤岡委員から先ほど、櫻井委員からお話をお伺いしたいというお話があったので、どういう内容かもう1回共有いただければと思うのですけれども。</p>
藤岡委員	<p>ありがとうございます。私から先ほど申し上げたのですけれども、やはり被害者支援だけではなくて、加害者を生まないための教育というのがすごく大事なことを思っていて、そういうところもSRHR、包括的な性教育のところは櫻井委員がお得意なところかなと思いますので、ぜひミニレクチャーいただくと勉強になるなと思っています。</p>
高見副会長	<p>櫻井委員、今、推薦がありましたけど、いかがでございましょうか。</p>
櫻井委員	<p>ありがとうございます。私でよろしければSRHRの部分をお話しできたらと思います。</p>
高見副会長	<p>ありがとうございます。</p>
櫻井委員	<p>すみません。私からもよろしいでしょうか。</p>
高見副会長	<p>お願いいたします。</p>
櫻井委員	<p>ありがとうございます。恐らく私も、横須賀市の男女共同参画計画で関わったときに、横須賀市の多様な性の条例ができた後の計画策定のときに、ジェンダー平等とは何かというジェンダー平等に男女だけなのか、多様な性も包含するのかみたいな議論が起こっていて、恐らくこの中で</p>

	<p>も様々な捉え方だったり考え方があるのかなと思っています。</p> <p>この参加者のメンバーの中にも、皆さんそれぞれの得意分野があったりいろいろなところがある中で、いま一度、ジェンダーですとかジェンダーの主流化みたいなどころ。あと政策のトレンドという、ミニレクチャーの内容に収まるかというところは不安でもあるのですが、多分そこを一度どなたかにお話ししていただいて、このメンバーの中で共通認識としていくのが大事かなと思っています、ここは私も横須賀市の審議会でも、みんなそれぞれ腹落ちしたようで腹落ちしてなくて、ずっと議論が行ったり来たりしてしまっていて、それがふわっと決まってしまうという。それは計画を作らなければならないというゴールがあったので、ここは含むけどここは含まないみたいな感じにして、そこはある意味分断を生んだ計画になった。</p> <p>もちろん全部をやろうとすると、例えば渋谷区とかはもう結構全部がダイバーシティみたいな感じで、逆に少し分かりづらいなと個人的には思っていたりはするのですが、そこも含めてジェンダーとはとか、ジェンダー主流化についてレクチャーをどなたかにしていただくのがいいかなと思っています。</p> <p>私がもう思いつくこの人だという方は、ジェンダースペシャリストの大崎麻子さんなのですけれども、大崎さんはCSWとかでいろいろとお忙しかったりもするので来ていただけるのか分からないのですけれども、そういったしっかりと国ですとかグローバルなところも含めてコンセプトを理解していくところはあってもいいのかなと個人的に思いました。</p>
村松会長	ありがとうございます。タイムスケジュールを考えると、大崎さんは国連のCSWの委員ですよね。これから出かける頃ではないですか。
櫻井委員	そうです。来週からCSWに行かれますし、ちなみに私も来週から行くのですけれども。
村松会長	ユースでいらっしゃるのね。そうですね。先でよければあれだけ、割に早いほうがいいかな。課長、何かありますか。
区民生活部男女共同参画担当課長	いえ、同じです。大崎さんは私も存じ上げているところがあるので、確かに非常に多忙でいらっしゃるということはあります。一方ジェンダー主流化のスペシャリストでもいらっしゃいますので、どのようなアプローチができるのかを考えていたので、なかなかお越しいただいたりすることは難しいかもしれません。どなたにお願いするかということもありますが、ジェンダー主流化について、皆さんで理解を深めることは必要かなと思いました。それをどのようなアプローチにすればいいかを、事務局として少し考えてご相談差し上げたいかなと思っています。
村松会長	ミニレクチャーは1回に2人くらいと思いましたが、ジェンダーとはとか、ジェンダー主流化というところは大事なので、15分くらいでは収まらないかもしれないので、場合によっては櫻井さんにも、ほかのところのこともよくご存じでいらっしゃるから、櫻井さんと誰か。山田さんとか私ができる範囲でやるとか、2人くらいでやるのはどうでしょうか。私はそんな完全ではないけれども。
山田委員	山田さん、どちらがいいですか。山田さんは自分だったら何を話したいとかはありますか。
山田委員	私は講義になってしまいますから。どうなのでしょう。村松先生もまたたくさん講義でやってきたと思うので、どの部分がというのはご要望いただかないと、これはというのはしゃべりにくいのはあります。
村松会長	焦点を絞れということですね。
山田委員	まずジェンダーとは何かとか、講義をすると多分半年の講義をやっているような内容になるので。どの部分を知りたいかみたいなのを絞って

	<p>いただかないと、15分で何を話していいのかわかりません。特に今は多様過ぎて。</p>
村松会長	<p>分かりました。あり過ぎてということですね。では、とにかくこのテーマでこういう問題があり得るのではないかと、候補を挙げておいて、あとは事務局と副会長とで相談させていただくということで、今日はアイデアだけを取りあえず出していただいて、それを少し整理して。でも、次回のことは決めたい。次回に事務局は駄目ですか。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>ご提案でございますけれども、ジェンダーもしくはジェンダー平等という大きな概念については、今、山田委員からもおっしゃったように一面的ではなく多面的であったり、入り口の認識がある程度やはりどこかで、それぞれの専門性を皆様を持ちながらも、1点共通している部分があるところを作る意味では、意識合わせの方法として早い段階でジェンダーについて。ジェンダーとは何ぞやというのは難しい問いなのですが、それにおいてやることはすごく大切なことだと思って、事務局としてどのようなサポートができるかなと考えておりました。</p> <p>一方、山田委員がおっしゃったように、こちらはあくまで審議を頂く場でございますので、情報提供という形でのミニレクチャーというものがあって、それは導入であったり資料提供という形でもあるかもしれませんが、まずもって議論を深めていただくための流れをどう作るかという部分であるものかなという理解をしておりましたので、もし可能であればまず何が一番大事なのか、何を話さなければいけないのかということをご指示いただければ、事務局で第3回に向けた準備はさせていただきたいと思っておりますので、どこから皆様のお話を深めていくかということでも頂ければとは考えていたのですが、いかがでしょうか。</p>
村松会長	<p>私は教育のところならいくらでも話すんですけど。早いほうがいいところでは入り口のところで、櫻井さんはほかの自治体の条例作りにも関わってきて、その辺の議論もされていらっしゃるということで、その辺の他区の状況みたいな、どういう議論をされているのかとか、その辺のことを大上段に構えて理論をきちんと構築するというのではなくて、具体的なところからお話いただくというのはいかがでしょうか。</p> <p>でも、櫻井さんもCSWに行くのよね。3月は駄目だ。</p>
櫻井委員	<p>そうなのです。実は帰国が26日です。</p>
村松会長	<p>4月ならできますか。</p>
櫻井委員	<p>ほかのところの例みたいなところでご紹介させていただくのはできるかなと思います。</p>
村松会長	<p>多分、ジェンダーのことは1回では済まないかもしれないので、ほかの自治体がどんな議論をしているのかという辺りも、すごくこの具体的なところから参考になると思うので4月をお願いできれば助かります。3月は何にするか、もう少しこちらでも考えてみます。4月でお願いしてもいいですか。</p>
櫻井委員	<p>はい。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。よろしくお願ひします。</p> <p>あと、ほかのテーマではどうでしょうか。今日もいろいろ話が出て、固まっていけないけどというところがあったところで、お話しただけの方。</p>
高見副会長	<p>今、村松会長とお話ししましたが、ジェンダー平等は大きなテーマではありますけれども、最初に議論の入り口ということで村松会長に少しお話を次回頂いて、各論に入っていく形でどうかなと思うのですが、いかがでしょうか。</p>

村松会長	<p>人には振るけど、自分で引き受けようとなると結構荷が重いなという気はしているのですが、考えてみます。責任上、まずは入り口で話題提供という形でさせていただきます。その次に、ほかのところではどうい議論をしているかを櫻井さんに補足していただいて、その次にいろいろな具体的なところの問題で入っていくのはどうでしょうか。</p> <p>では、来月は私だけでいいですか。もう1つ、何か個別の領域についてでも。もう1人くらいやったださる方があれば。</p>
高見副会長	<p>ジェンダーについて理解する意味では、私は三戸委員に、男女でなくてジェンダーという切り口でお話しいただくと、委員にもいい情報を提供できるのではないかなと思って、もし可能であればお願いしたいと思うのですが、皆様方はどうでしょうか。</p> <p>では、申し訳ございませんが、村松会長と三戸委員で次回もし可能であれば話題提供いただいて、またディスカッションしたいと思います。</p>
村松会長	<p>私もかつてはあまり知らなかったのですが、原水禁の反対署名などが杉並区で起きたことは知っていましたが、去年それから70年だったのでいろいろところで集会があつて、学ばば学ぶほど杉並区はその歴史があつて。その後も区長とともに話す会などでも、そういういろいろな活動をしてきた方がたくさんいらっしゃる。さっき赤池さんがおっしゃっていた社会教育なり社会活動の歴史がすごくあるので、そこはとても大切ななと思っているので、さっき申し上げた岩橋さんに少し杉並区の女性を中心とした歴史のところをお話しいただくのは1回あります。</p> <p>それから、教育は赤池さんの出番ですね。そこも私も手伝ってもいいです。それから、差別とは何かという辺りで、むしろ法律の専門家であらっしゃる岩田さんや横山さんから人権だとか差別だとかその辺の話を、ジェンダーだけに限らずどのように考えられてきているのかという辺りのお話をさせていただくというのは、どちらかをお願いするのはどうですか。</p>
岩田委員	<p>私は深い総合的な議論はあまりできないほうで、事件を処理することに注力するタイプなので、事件の思い出話とかだったらいろいろあるのですが、この場での有益な情報提供には欠けるのかなという気がしております。荷が重いです。すみません。</p>
村松会長	<p>ジェンダー平等にせよ、性の多様にせよ、基本的にそこに人権の視点はやはり欠かせないと思うので、人権についての基本的なところで横山さんに一度お話しいただくのはいかがでしょうか。</p>
横山委員	<p>私がしゃべると、差別ということが主になりまして、差別については本音と建前なのです。だから建前ではそうなのだけれども、実は本音はこうだというのは結構あるのです。ジェンダーもそうですけれども、私が担当しているのはハンセン病とかアイヌ差別とか、近ければ東日本大震災差別もありましたし、いろいろな差別を見てきましたので、そんなことで事例として挙げるのであれば、本音と建前ということをして、ジェンダーもお話しできると思います。</p> <p>ただ、守秘義務がありますので、人権の相談について具体的なことはお話しできませんけれども、さわりのところはお話しできると思います。</p>
村松会長	<p>今伺っていて、間接差別の話などはきちんと理解したほうがいいのではないかなと思いますので、ぜひお願いしたいなと思います。</p> <p>今決まってきたのが、リプロは櫻井さんが引き受けてくださったのですよね。ほかには困難女性のことについて、藤岡さんは少しお話しいただけますか。</p>
藤岡委員	<p>困難女性ということで結構広いテーマだと思うのですが、シングルマザー支援に限った話、現場の話だったらできるかなと思います。</p>
村松会長	<p>では、ぜひそれをお願いします。</p> <p>今、幾つか上がりました。さっきの三戸さんのところはLGBTQだ</p>

	とかで、パートナーシップ制度はこれに絡めて、区ですか。
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>ありがとうございます。すみません、次回以降の構成のこともありまして、事務局から今少し流れを整理させていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>今、会長から皆様にお話しいただきました、まず議論を深めるための情報提供という形で、今日はどこに重点を置いていくのかということを少し焦点としてくださっているのかなと伺っております。今テーマとして出されたものとしては、教育、人権、あとはジェンダーという大きな概念、それから多様性やリプロ、あと困難女性がありました。今5、6個ほどのテーマがありましたが、これがいわゆる答申に向けた1つの軸として今日皆様からご提示いただいた中から少し絞られていく方向性ととらまえてよろしいでしょうか、ということもお伺いできればと考えております。</p>
村松会長	<p>そのように考えると、やはり不平等とか差別とかという、割にコアにある労働の問題を1回取り上げなくていいだろうか。今のバランスからいうと1つあるかなという気がするけど。労働の問題だったら。でも、杉並区の在住と働いている人といろいろな人がいるけど、どちらも含めてですか。働き方とか労働の問題はどういう切り口で取り上げるのがいいのか、私もすぐには分からないですが。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>まさに副会長がワークライフバランスのご専門でいらっしゃるかと伺っております。杉並区の現状の情報や、ワークライフバランスという社会的な概念的な部分などは、副会長にご入り用な資料を杉並区の事情として整えることはできるかと思います。</p>
高見副会長	<p>振っていただいたので、先々機会があれば話題提供はいたします。</p>
三戸委員	<p>すみません。今、頂いたカテゴリーだといろいろぐちゃぐちゃになっているかなと思っていて、いわゆるジェンダーとか多様な性とか困難女性とか 이슈のほうと、あとは分野というか、教育とか労働とか。もしかしたらほかに福祉とか防災とかも入ってくるのかなと思うので、掛け算してもいいのかなと思いました。</p>
村松会長	<p>掛け算という意味は？</p>
三戸委員	<p>教育の中でもジェンダーも、恐らく困難女性とか、多様な性とかいろいろ含まれてくると思いますので、イシューと分野で少し分けて考えたほうがいいのかと思いました。</p>
村松会長	<p>そうしましたら、今日出たご意見を少し事務局と調整して整理して、どういう組み合わせでどのように、どなたにお願いするかみたいなことを相談してご提案するのはいかがでしょうか。</p> <p>ただ来月は決めておかないと。来月は私と三戸さんでやることになったから、それ以降については少し時間を頂いてありますので、来月まででもいいし、その前でも、やはりこのところは私がもう1回話せませみたいなところがあればご提案いただいて、と思います。ただ、今後の進め方として、それをいつまでもやっているわけにはいかないということもあるので、これに3回か4回取りましようという話でしたね。たくさんテーマがあればやはり。レクチャーをやったほかに、答申に向けた話を進めていく議論と、レクチャーと。それがうまくかみ合うかなかなか難しいかもしれないけれども、レクチャーはレクチャーで、本筋の議論も並行してやっていくみたいな感じでいいですか。</p> <p>うまくいくかどうか心もとないのですけれども、この審議会の目的は最終的には答申を出すことですから、答申に向けてどういう議論がまだ足りないというところで、ミニレクチャーをしていこうということなので、そこに向けた議論も、前に聞いたレクチャーも受けて次に展開させ</p>

	ていくみたいな形の進め方でいく。そのためには、3回ないし4回取って、もう9月に答申しなければいけないので、最後の2回くらいは答申に向けたたたき台を少し皆さんで議論していただくみたいな方向かなと思いますけど、この進め方について何かご意見がある方がありましたらお願いいたします。
区民生活部男女共同参画担当課長	すみません。事務局から1点お尋ねしてよろしいでしょうか。先ほど会の冒頭で「『未来像』『課題』『方策』シート」というところで、未来像のイメージを皆様からというお話があったかと思ひまして、その部分を想起しておいたほうがいいかなと思って事務局でお話しさせていただきました。
村松会長	多分方策になるのかどうか分からないですけど、根本ですけれども、これまでに出てきた中では行動計画の在り方そのものをどう考えるかという話が、今日条例の話が出てきて、それからいろいろな調査をやったかどうか。こういう調査をという話もあったかなという気がするのですが、それ以外にもいろいろな方策は考えられるかもしれません。それを1回、方策の話をする時間を取ってもいいかもしれないですね。
区民生活部男女共同参画担当課長	あと、未来像というお話があった。未来像を皆さんで共有するみたいなお話があったのかなと思ひましたので。
高見副会長	今おっしゃったのは、未来像を1回共有する必要があるということですか。
区民生活部男女共同参画担当課長	そういうお話があったのかなと思ひたものですから、確認させていただきました。
高見副会長	ありがとうございます。確かに今日事務局から「『未来像』『課題』『方策』シート」というのを議論の材料として頂いて、それを基に各委員から自由に意見を出していただいて、一旦整理するというのが今日の内容ですので、そのように進めたいと思います。皆様からの意見の中から未来像を共有できるかというのは、大きなテーマですのでなかなか難しいところではありますが、今日1回で別に議論が終わるものではなく、次回以降の議論の中でもあるべき姿を共有しながらやりたいと思います。 その上でミニレクというのを次回から行えればと思うのですけれども、ミニレクという形で、ジェンダーとか平等とか、あるいは各論とかそういうものについて深めると同時に、可能であれば区の取組についても情報を頂いて、それについて具体的に議論して、ふわっとした議論で終わらないように、具体的な施策についても同時に議論していければ、答申に向けて少し具体的な議論になるのかなと考えてところです。それは皆様とも相談して、事務局とも打合せしながらやっていきたいと思ひます。
岩田委員	高見先生のお話や事務局のお話も聞いて、ゴールに向けて気づいたことを述べさせてもらいます。レクチャーを3、4回やる。それから未来像、課題、方策を考えていこうというのでは恐らく遅いし、またその理念的なもの、レクチャー的なものと最後の提言の内容とがあまり関連しなくて、浮いた話になってしまうと思ひます。 1つ、こういうのはどうかなと思うのですけれども、各分野で実際に取り組みをされている先生方がいらっしゃいます。特に当事者に寄り添った活動をされている方がいらっしゃいます。その活動の目線から見て、このシートにまとめていただいた52の事業、例えばもっとこんなのがあっていいのではないのかとか。そういう課題、政策、要望。自分が体験しているところから、これがあったほうがいいのかというものは、その分野におけるその方の未来像の1つだと思うのです。 なので、率直にそういうところを、会議でも事前でもいいですし出し

	<p>てみて、それに対して事務局で対応できないようなテーマですと。要は所管が違うだとか、それは国だとか、都だとか。現実問題として難しいとか。予算の問題で難しいとか、そういうものもあろうかと思しますので、そこは事務局に最終的にまとめていただくこととなりますので、会長、副会長らと調整していただいて、対応できるものとしてどうなのか。そういうイメージを順次具体化していくことがいいのか、できるのかなと、僭越ながら感じました。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。ご発言の前に思い出したのですが、櫻井さんからさっきご提案があった区のこれまでの取組、全体のジェンダーの部分だけではなくて、ジェンダー視点で施策そのものを見直していく作業がどうやれば可能なかという辺りは、区の協力がなければできないところですが、そこをどのように取り組むかという、今の話と絡めて考えさせていただいてよろしいですか。施策そのものを、具体的な施策について考えるということですよ。ありがとうございます。</p>
高見副会長	<p>岩田委員に教えていただきたいのですが、今おっしゃったご提案は、各専門分野の委員が何かしら区の施策について、こういうものが追加であったほうがいいのかというのをテーマごとに意見を述べていただくなど、どのようなイメージで進行すればいいと考えていらっしゃいますか。</p>
岩田委員	<p>進め方については、実際のイメージではないのですが、勉強してから理念を共有してからだと遅いなという心配。そういう関心からの発言でございます。</p>
高見副会長	<p>分かりました。それでは、概念とか理念のレクだけにとどまらずに、区の具体的な施策について意見を同時に述べる機会にすればよいということですか。</p>
岩田委員	<p>そうです。テーマとか委員の関心事項やご経験と、レクチャーしてくださる先生のそれがかみ合っている話であれば、具体的な話ができるのかなという感じがしています。</p>
藤岡委員	<p>ありがとうございます。多分おっしゃっていただいたことは、杉並区の将来像を考えてくださいと言われてもなかなか難しいものがあるところで、ジェンダー平等とは何か、ジェンダーとは何かという定義を考えていくと同時に、杉並区はどのようになつたらいいのだろうと考える時間が多分必要だと思っていて、そのときに何かしら材料があると意見が出しやすい。それを基に将来像はこういうことだからこういう分野に注力していこうみたいな話ができるのではないかなと思いました。</p>
櫻井委員	<p>すみません。私からもよろしいですか。やはりこの審議会がどこに向かっているのかはある程度バックキャストで考えて私たちもあと数回をやっていかなければならないかなと思っていて、このメンバーが全員杉並区でいろいろな活動とかをしているのであれば、皆さんの思う「こういうのが必要だよ」というのを出し合っていくのは大事かなと思っております。私も杉並区には関わっておらず、これがきっかけで杉並区のことをいろいろ調べた側なので、理想論を述べるのが、それは杉並区とマッチするのかわからないところも若干心配だなというところがあります。</p> <p>そういった点でやはり今の杉並区の現状ですとか、それぞれいろいろな計画だったり条例があって、そこがどこに向かっているのかは、理想はもう恐らく条例だったり計画とかに書かれていると思うのですが、それに対して今、現状を考えたときに何が必要なのか、何が足りていないのかという視点で見えていくのが個人的には大事かなと思っていて。そうしないと杉並区としてこれをやるべきなのだとか、さっきの条例の話もそうですが、そういったお話ができない気がしています。みんなの興味、</p>

	<p>関心を共有して勉強して終わってしまっていて、この会としてよいのかというところが結構個人的な不安でもあるので、その辺りをもう少しクリアにするというか、広く何でも話していいみたいなどころだったり、ゴールも結構広くというところがあるので、なかなか難しい会議になってしまっているところもあるので、その辺りが、前回は進め方の話があったと思うのですが、もう少しどういうゴールにしていくのかという筋道が見えてくるとよいなと個人的に思いました。</p>
村松会長	<p>すみません。これまでのところはかなり広くいろいろな意見を各方面から出していただくほうに主眼を置いてきたので、話がどんどん広がっているだけで集約する方向に行っていないのだらうと思います。ただ、もうそろそろ中盤から後半に入っていくので、目指すところ。私も答申をどういう形にするのかというところはずっと気になりつつ考えてはいるのですが、今のところその材料を頂いている感じですよ。それを、これまでの議論を踏まえてどういう形にまとめていくことが可能なかを、そろそろたたきみたいなのをイメージしつつ、少し具体的なものを提案して、ご議論いただく方向というのはいかがでしょうか。</p> <p>予定ではもう少し議論を、ミニレクチャーみたいなことを数回やっているとありますが、そのときにはそれが終わってから次の段取りを考えるのではなくて、最終目標としてまとめるものがある程度のイメージを作りながらやっていかないと、最後大変なことになるだらうなという気がしますので、それは念頭に置きつつ進めたいと思います。</p> <p>すみません。私の進行が漠然としていたのでご心配をかけているかなと思いますが、最終的にはそういう方向で固めていきたいと思っています。</p>
赤池委員	<p>櫻井さんのご指摘はまさにと思いますので、一応私も区民として、あと団体活動してきた者として教育とか子育てとかという分野に携わってきましたので、例えば、岩橋さんが昔のことをずっとやっておられるのをお話しくださるのであれば、2000年以降の施策と実際の実践がどういふものがあったかと。教育と子育てとか、ケアの分野とかを少し資料とかを当たって整理してお示しすることは可能かなと思っていますが、いかがでしょうか。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。そしたら、岩橋さんとペアで、岩橋さんにずっと古いところから遡っていただいて、岩橋さんは古いところから現在までずっと活動されていらっしゃるんですけど、新しいところを特に赤池さんに少しやっていただくと。1人で15分で全部は無理だから、割に古いほうの歴史を少し岩橋さんにやっていただいて、今にどのようにつながっているかはお話しいただいていいと思いますけど、新しい動きについて赤池さんをお願いする。そして、1回組み立てるといふことで考えたいと思います。</p> <p>これまでの議論について、進め方も含めて何かご意見がまだおありでしたらお願いしたいと思います。</p>
岩橋委員	<p>3月、4月は先ほどの。</p>
村松会長	<p>3月に私と三戸さんがジェンダーあるいはもう少し多様性の部分だったりをお話しする形で、4月以降については今日出た具体的な提案、あるいはこちらからお願いする部分もあるかもしれませんが、次にまたお示しする形でいきたいと思っています。その中で1回歴史の話とか、最近の動きも。</p>
岩橋委員	<p>分かりました。</p>
村松会長	<p>お願いします。最終的には9月に出さなくてはいけないのですから。夏も働いていただくことになるかと思いますが、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>

	<p>そうしましたら、いたずらに延ばしても仕方がないので、もともと8時半くらいまでの予定でした。何かほかに最後のご発言がある方があればお聞きしますけれども、よろしいでしょうか。区からお願いします。</p>
区民生活部長	<p>すみません。先ほど杉並区の現状と課題についてというお話がありましたけれども、少しこれは事務局で検討して、次回お示しできるような資料作成をしたいと考えてございます。おっしゃるとおりで、杉並区にあまり関わりのなかった先生もいらっしゃいますので、その辺りは現状と課題を整理してお示ししたいと考えてございます。</p>
村松会長	<p>そこのところも1回スケジュールに組み込みたいと思いますので、事務局と少しその辺を相談させてください。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>分かりました。あと事務局から、次回に向けてのご相談になります。 今、寺井から申しあげましたように事前資料という形で、今日は皆さんから頂いたお話で、かなり広範囲の、女性管理職でありますとかDVでありますとか、非正規の問題等がありました。社会としてや、杉並区としてどのような問題があるのか、1つのテーマには必ずその2つの側面があると思います。 こちらでどのようなものをご用意できるかなのですけれども、まずは次回ジェンダーとその平等を広い概念の中で会長と三戸委員でお話いただけたということはあると思うのですが、議論を円滑に進めるために、事前資料としてこちらができるだけのご用意をしたいと思っておりますが、例えば先ほどこういうのがあったらなというのがばらばらとあったと思うのですが、杉並区ではどうなのかということで、こんな資料があったら用意してくれないかということがありましたら、次回までの間に可能な限り事前にお示しできるようにしたいと思います。 前回、女性管理職の校長先生と副校長先生の割合を知りたいということがありましてこちらで調べてお示したように、特に数字的な部分もあると思いますけれども、こちらで調べてお示しできるものがあって、次回以降委員の皆様でテーマとして取り上げたいものがありましたらご用意いたしますので、後ほどまたメール等で頂いても構いませんが、教育であったり女性の働き方であったり、何かこちらで資料として目を事前に知識として持ちたいものがありましたら、お示しいただければご用意したいと思います。今日お伺いできることでもできるだけ対応したいと思いますので、その辺りを少しご意見頂ければ助かります。</p>
村松会長	<p>ありがとうございます。事務局が精力的にやってくださっていますので、ぜひ注文を出していただければと思います。 そうしましたら、以上で議題4という形での第2回以降の進め方まで終わらせていただきたいと思います。 最後に次第5「その他」について事務局からご連絡お願いいたします。</p>
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>念のためですけれども、先ほど申しあげた資料のご用意というところで、今こういうのがあったらというのがありましたら今日でも承れると思っているのですが、その点は大丈夫でしょうか。 後でもいいですし、今、委員の中で何かあったらということがあれば、もしなければ最後の連絡事項に移らせていただきますが、ありましたら承ります。大丈夫でしょうか。</p>
村松会長	<p>オンラインの方も含めて、今、思いつく資料があったら挙げてくだされば対応してくださるそうです。後でも結構だそうですけれども、考えれば出てくるかもしれないですね。今、ミニレクでも労働のところあまりないのが気になっているので、そこの基礎資料みたいなことがもう少し必要かもしれない。少し考えさせてください。 ほかの方はよろしいですか。では、もしもう1回資料を御覧になってお考えになることがあったら、ぜひ事務局に要望を出していただければと思います。</p>

	では、最後の連絡事項をお願いいたします。
区民生活部男女共同参画担当課長	<p>分かりました。では、今ほどのご要望の指示においては何か記入して戻していただける形でこちらからご連絡させていただきますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは連絡事項を事務局から差し上げます。</p>
区民生活部管理課男女共同・犯罪被害者支援担当係長	<p>それでは、最後の事務連絡ということでご案内申し上げます。</p> <p>次回の開催日についてでございます。次第にも記載のとおり、今回は3月26日水曜日、同じく午後6時からこの会場で行いたいと思っております。来週早々にでも皆様宛てに改めて出欠確認のメールをさせていただきますと思いますので、お手数ですがけれども出欠及びオンラインでの参加も含めてお返事いただければと思います。</p> <p>それから、第1回審議会の会議録に大変短い時間でご協力いただきましてありがとうございました。第2回会議録につきましても、3月12日頃に一旦皆様に初稿という形でお送りさせていただければと思っております。またメールでご案内いたしますので、その際にはご協力のほどをお願いいたします。</p> <p>それから最後、事務的なご連絡で恐縮です。前回でも申し上げたとおり、マイナンバーが報酬の支払いで必要となっております。本日お持ちでない方がいらっしゃいましたら、また次回以降で構いませんのでご用意いただければと存じます。よろしくをお願いいたします。</p>
村松会長	<p>よろしいですか。では、本日の第2回杉並区ジェンダー平等に関する審議会はこれで終了したいと思います。どうもありがとうございました。多々、進行の勝手際がありまして申し訳ありません。</p>